

学位授与番号：甲 1 0 4 3 号

氏 名：金子 惇

学位の種類：博士（医学）

学位授与日付：平成 29 年 6 月 28 日

学位論文名：

The ecology of medical care on an isolated island in Okinawa, Japan: a retrospective open cohort study

学位論文名（翻訳）：

(離島の“the ecology of medical care”プライマリ・ケア医のゲートキーパー機能と高次医療機関への紹介、救急受診、入院についての後ろ向きオープンコホート研究)

学位審査委員長：教授 柳澤裕之

学位審査委員：教授 木村直史 教授 大野岩男

論 文 要 旨

論文提出者名	金子 惇	指導教授名	松島 雅人
--------	------	-------	-------

主 論 文

The ecology of medical care on an isolated island in Okinawa, Japan
: a retrospective open cohort study.

(離島の“the ecology of medical care”プライマリ・ケア医のゲートキーパー機能
と高次医療機関への紹介、救急受診、入院についての後ろ向きオープンコホート研究)

Makoto Kaneko, Masato Matsushima, Greg Irving

BMC Health Services Research;2017;17(37).

要 旨

背景：本研究の目的は高次医療機関へのアクセスが制限された離島における“the ecology of medical care”を記述し、日本全国を対象とした先行研究との比較を通してプライマリ・ケア診療所のゲートキーパー機能を評価することである。

方法：本研究は1か所の無床診療所のみを有しプライマリ・ケアの機能を検証するために適した環境である沖縄県の離島において行われた後ろ向きオープンコホート研究である。対象者は2013年2月1日から2014年1月31日の1年間に同診療所を受診した全患者であり、受診数、島外医療機関への紹介数を計測し2003年に行われた全国規模の先行研究と比較した。

結果：伊平屋島の人口は1314人であり、研究期間中5682件の受診及び290件の島外医療機関への紹介があった。うち64件が救急外来紹介、57件が入院であった。1000人当たり1か月あたりに換算した割合では受診数360.4件(95%信頼区間: 351.0-369.7)、島外医療機関への紹介18.4件(16.3-20.5)、救急外来紹介4.1件(3.1-5.1)、入院3.6件(2.6-4.6)であった。先行研究と比較しプライマリ・ケア診療所への受診数が多いにも関わらず、病院外来受診数、救急外来受診数、入院数は少なかった。

結論：この結果は離島においてプライマリ・ケアの特質、特にゲートキーパー機能が重要な役割を果たしていることを示唆している。

学位論文審査の結果の要旨

金子惇（かねこ まこと）氏学位論文は、和文タイトル「離島の“the ecology of medical care” プライマリ・ケア医のゲートキーパー機能と高次医療機関への紹介、救急受診、入院についての後ろ向きオープンコホート研究」と題するもので、主論文1編、副論文1編から成り、*BMC Health Services Research* 誌(IF 1.606), 2017年17巻(37)、に掲載された論文であり松島雅人教授の指導によるものです。

本研究は1か所の無床診療所のみを有し、高次医療機関へのアクセスが制限され、プライマリ・ケアの機能を検証するために適した環境である沖縄県の離島（伊平屋島）において行われた後ろ向きオープンコホート研究であり、日本全国を対象とした先行研究との比較を通して、プライマリ・ケア診療所のゲートキーパー機能を評価することを目的とした。先行研究と比較しプライマリ・ケア診療所への受診数が多いにも関わらず、病院外来受診数、救急外来受診数、入院数は少なく、離島におけるプライマリ・ケアの特質、特にゲートキーパー機能が重要な役割を果たしていることが示唆された。

学位審査は2017年6月5日、木村直史教授と大野岩男教授のご出席のもとに公開で行われました。席上以下の質問がありました。①先行研究は10年前のものである。本研究との比較において問題ないのか。また、最新の研究はないのか。②先行研究は都市部を対象としているのでプライマリ・ケア診療所が多数ある。本研究と比較対象が異なるのではないのか。③本研究で使用している電子支援システム ドクターベイズは通常の電カルシステムか。④本研究の結果は、伊平屋島に特異的な可能性はないか。沖縄県立北部病院が医師を派遣している沖縄の他の離島ではどうか。⑤本研究が医師の能力に左右される可能性はどうか。医師が交代した後に同様な調査を行うことはできないか。⑥社会経済的要因と病院外来受診数、救急外来受診数、入院数との関係はどうか、など多数ありましたが、金子惇（かねこ まこと）氏はこれらの質問に的確に回答しました。

学位審査委員会は慎重審議の結果、「離島の“the ecology of medical care” プライマ

リ・ケア医のゲートキーパー機能と高次医療機関への紹介、救急受診、入院についての後ろ向きオープンコホート研究」と題された本論文は、離島におけるプライマリ・ケアの重要性と有用性を初めて科学的に証明した研究であり、学位申請論文として十分価値あるものとして認めた。